

〔小右記〕長和五年三月十二日丙辰、今日臨時祭○石試樂、略、中西對南廊庇立御倚子敷、毯代、御倚子、前承足、○中略

主上○後一條、時九歲、著給御座著御直衣、攝政、扶持奉、令著御座、之後攝政道長、藤原先著御前圓座、

〔兵範記〕仁安三年十二月十四日辛丑、臨時祭○賀茂、試樂也○中略西刻主上○高倉、時八歲、出御御直衣、無總角、頭中將

○藤原實家供御草鞋、著御御倚子不置承足、著御之間有尋、臨時不叶、行事失也、

〔天皇冠禮部類記〕大外記良業記、元久二年正月三日辛酉、今日皇帝御門○土於內裏有御元服事春秋十

略中主上入御○中略女官依例奉仕御裝束、撤帳中平敷御座、鋪二色綾毯代、其上立平文御倚子、置承足、

火爐、

床子名稱

〔倭名類聚抄十四坐臥具〕床子 本朝式云、行幸用赤漆床子、

〔伊呂波字類抄志雜物〕床子シヤウツシ諸司廳坐者、親王及中納言以上漆床子、自餘素床子、

〔雅亮裝束抄一〕だいきやうのこと

ないらんのいるにもやのだいきやうを、すきのだいきやうとなづけてせらる、事あり○中えんち

かく三げんのあくをうちて、さうじのしりかくるほどなるをたてたり、それはしりをかけて、こ

いをきりて御さかなにまいらするなり、

〔安齋隨筆前編十二〕簀子 簀といふは、竹を並べて編たるを云、其竹の並たるごとく板を並べる

故簀子と云、竹簀のごとく板を並べたる床子を、四足あるコ簀子床子といふ、床子一名床机と云、

内裏儀式見えたり禁庭にて官人の腰かくる物也、

〔延喜式三十四木工〕大床子一脚長四尺五寸、廣二尺、料切釘三十隻四隻各長一寸五分、膠一兩長功八人、

中功十人、短功十二人、

小床子一脚高一尺三寸、長二尺、廣一尺五寸、料切釘八隻各長一寸五分、膠一兩長功四人、中功四人半、短功五人、

檜床子一脚長四尺、廣一尺三寸、料切釘廿六隻四隻各一寸五分、膠一兩長功三人、中功三人半、短功

床子製作